川越市立博物館

博物館だより

第83号

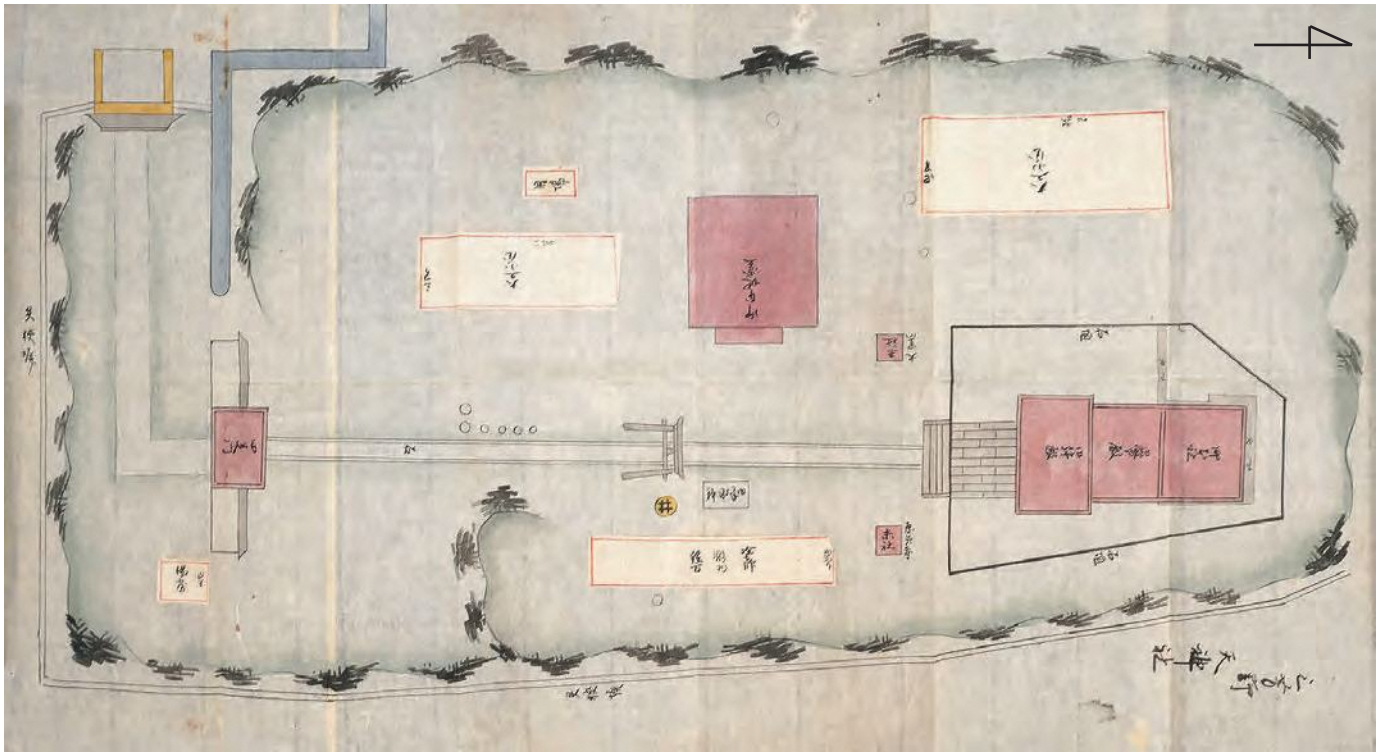


図1

三芳野天神社絵図の紹介

1　はじめに

現在当館では、第27回収蔵品展「三芳野神社とその社宝」(会期：3月17日[土]～5月13日[日])を開催しています。この展覧会は、当館が収蔵(寄託)している三芳野神社の社宝約85件の中から、当社に相応しい社宝約50件を展示し、社宝を通して三芳野神社の特徴や、川越が江戸と深く結びついていた点を再認識していただくことを目的としました。

今回、展覧会の準備を進める中、江戸時代後期の弘化4年(1847)に行われた大規模改修に関連する貴重な絵図2点の存在を確認しました。しかし、準備の都合などにより、展覧会で紹介することができませんでした。そこでこの2点の絵図を紹介し、江戸後期の三芳野天神社について考えてみます。

2　三芳野天神社境内図(高沢町井上家文書、C-1-2){図1}

(1) 伝来

本絵図は、高沢町町名主の井上家に伝来したもので、井上家は屋号を「丹波屋」と称しました。丹波屋は主に材木を扱う商家で、城下の主な寺社の修復工事をしばしば請け負っていました。本図も、修復工事に際し作成された絵図と考えられます。

(2) 形状

縦280㎜×横520㎜、縦280㎜×横390㎜の一枚の和紙とその3分の1の幅の和紙を貼りあわせ一紙に仕立てられています。一部に彩色も施され、保存状態は良好です。

(3) 内容等

本図は、三芳野天神社の内宮の境内を描いた平面図です。北から順に、御宮、末社(蛭子社、大黒社)、本地堂、石鳥居、四足門が描かれています。建物は薄紅色に塗られ、所々に墨書で注記されています。特に

注目されるのが御宮の姿です。御宮は、本殿、幣殿、拝殿という、明暦２年 (1656) の修復後の姿である権現造の形態で描かれています。また、石鳥居が描かれており、この鳥居も明暦２年の修復工事の際に石鳥居となりました。そして、明治時代には存在しなかった本地堂や四足門が描かれています。

本図で特に注目されるのは、朱線で縁取りされた小屋が貼り紙で貼られていることです。そこには「大工小屋」や「塗師」、「彫物」等の文言が注記され、これら小屋が、修復の際に職人が従事する臨時の作業場であることを示しています。作業小屋は、境内に大工小屋が二箇所、塗師・彫物・絵方小屋が一箇所の計三箇所あり、様々な職人が関わっていたことがわかり、この工事がかなり大規模なものであったことをうかがわせます。本図には年紀が記されていないため、本図の年代を比定することはできません。しかし、本図の由緒や状態、そして特徴などを考慮すると、江戸時代後期の弘化４年 (1847) に竣工した大規模修理の際の絵図と考えられます。弘化４年の工事は、十二代将軍徳川家慶 (1793 ～ 1853) の命で行われ、老中阿部正弘 (1819 ～ 57) 等が普請奉行となり、幕府方の職人達が携わるもので、４月から 10 月頃までの約６ヶ月間に及びました。特にこの工事により社殿の屋根が瓦葺きとなる等、この時の工事がかなり大規模なものであったことを物語っています。丹波屋は、弘化３年３月 26 日にこの工事の世話役を川越藩の松平大和守家から命ぜられていることからも、本図は、弘化４年頃のものと比定されます。

3　川越城内三芳野天神社御別当所絵図

(1) 伝来　　(同 C-1-5){図 2}

本絵図も、前節の図１と同様に丹波屋に伝来したものです。紙質や描かれ方なども図１とほぼ一致することから、図１と２は同時期に同じ作者によって作成されたものと考えられます。

(2) 形状

縦 275㎜×横 604㎜で、縦 275㎜×横 405㎜の一枚の和紙とその２分の１の幅の和紙を貼り合わせ一紙に仕立てられています。所々に彩色が施され、門や塀、土塁等は俯瞰的に描かれています。上部左側に破れがみられます。

(3) 内容等

本図は、田曲輪内に存在した三芳野天神社の外宮を描いた絵図で、別当広福寺高松院と八幡宮も描かれています。本図に描かれた寺社は、すべて明治時代初期頃に廃寺、廃社となり現存しないため、江戸時代の具体的な様子は不明でした。しかし本図の発見により、江戸時代の田曲輪内に存在した寺社群の景観を知ることができるようになりました。ここで本図を基に、江戸時代の様子をみていきます。

本図は上が南となります。本図の中央で、一番大きく描かれているのは別当高松院です。その右上に描かれているのが三芳野天神社の外宮で、左上には八幡宮が描かれています。外宮は、明暦２年 (1656)、松平信綱 (1596 ～ 1662) の命で田曲輪内に建立された社で、高松院もこの時、田曲輪内に移築されました。八幡宮は、元禄５年 (1692)、信綱の孫信輝 (1660 ～ 1725) が田曲輪内に移築した神社です。そのためこの図は、元禄５年以降の景観を描いた絵図ということがわかります。

ここでは、『遊暦雑記』(文政 12 年 [1829] 頃成立) に記載がある外宮を中心にみていきます。『遊暦雑記』は、江戸在住の真宗僧侶、津田大浄が著した紀行文で、大浄は一般の人が外宮への参詣が許される２月 25 日にあわせ、江戸から当社の参詣に訪れました。南大手から入り、約５町 (約 500㍍) 土手際を歩いた所に天神門があり、その門は二重門で上に釣鐘があり、佐々木玄龍著（1649 ～ 1722、書家）の「三芳野天神」額が掲げられているとあります。そして門を入ると絵馬堂を兼ねた神楽殿が、その左手に間口２間奥行３間のきらびやかな社殿があると記されています。本絵図はほぼこの記述どおりに描かれていますが、ここに描かれていない情報も『遊暦雑記』には記されています。そのためこの両者を併せると、当時の景観をよく理解することができます。つまり、天神外宮の門は二重の鐘楼門 (①) で、ここに第 27 回収蔵品展「三芳野神社とその社宝」展示資料 No5「三芳野天神」額が掲げられていました。その門を入ると、絵図には描かれていない神楽殿があり、その左奥に外宮の社殿 (②) が存在しました。その社殿は間口２間奥行３間で、朱漆の色や彫物、金具に至るまで大変美麗であったことがわかります。この社殿が、正月 25 日と２月 25 日の年に２回、一般の人の参詣が許された社殿です。尚この社殿は、「佐久良能仁保比　三」(明治 20 年 [1887]、中島守謙著、展示資料 No48) によると、明治時代に廃社となると、市内喜多町の人々が購入し

氷川神社に移築して、境内八坂神社の社殿としたと記されています。この記述に従えば、氷川神社境内にある八坂神社の社殿が、江戸時代の三芳野天神外宮の社殿であったということになります。本図に描かれた外宮をはじめ別当高松院や八幡宮は、明治時代に無くなりその存在は不明です。そのため、江戸期の三芳野天神外宮の社殿という可能性のある八坂神社社殿は、今に残る江戸期の大変貴重な遺構といえます。

本図には、年紀は記されていません。しかし、前節で紹介した図１と同様な特徴がみられること、つまり、会所（普請工事の打合せ等を行う場所）や仮殿（天神内宮御神体などの一時的な鎮座場所）という臨時の施設が描かれていること、また図１と共に伝来した経緯などを踏まえると、本図も弘化４年頃のものと考えられます。

４　おわりに

今回は、今当館で開催されている展覧会で紹介することができなかった２点の絵図を取りあげました。これら２点の絵図は、江戸時代後期の三芳野天神社内宮と外宮の様子を詳細に描いたもので、当時の三芳野天神社を中心とする地域の景観を今日に伝える大変貴重な資料です。

ここで紹介した２点の絵図を通して、特に明暦２年、三芳野天神外宮が建立された以後の三芳野天神社は、今日の景観と大きく異なっていたことを認識していただければ幸いです。　　（学芸担当　井口信久）

［付記］

今回の紹介にあたり、資料所蔵者である井上誠一郎氏から多大なご協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

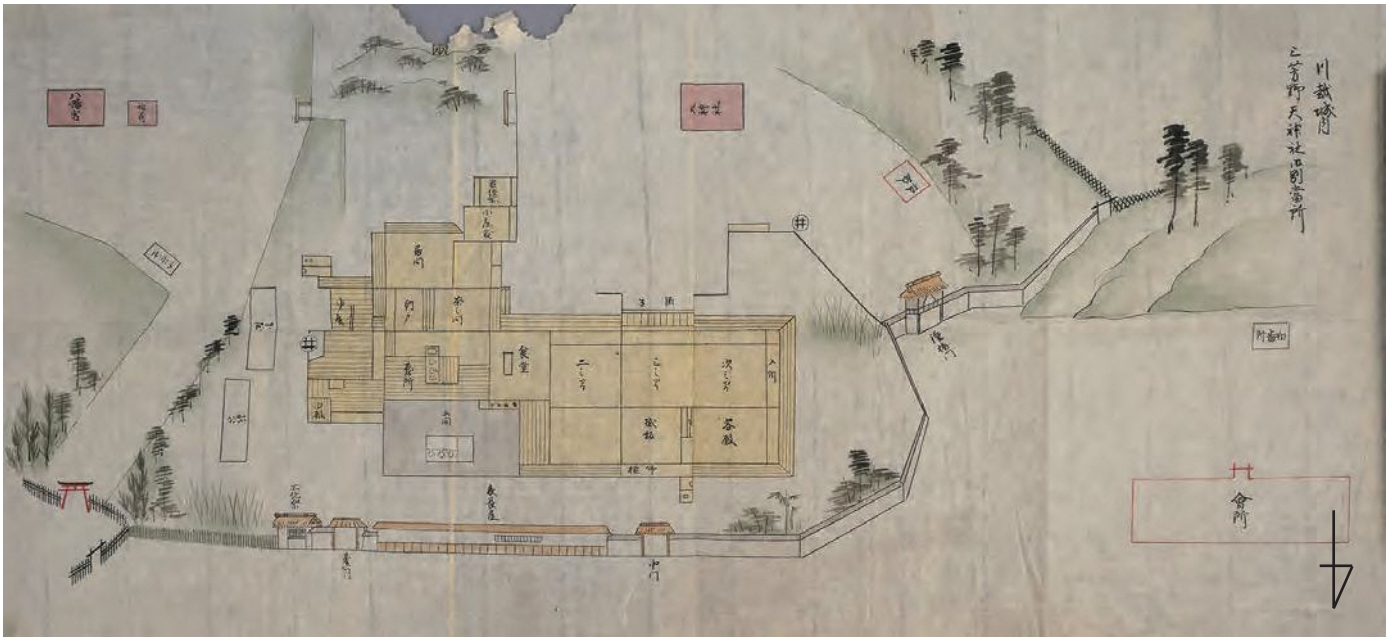
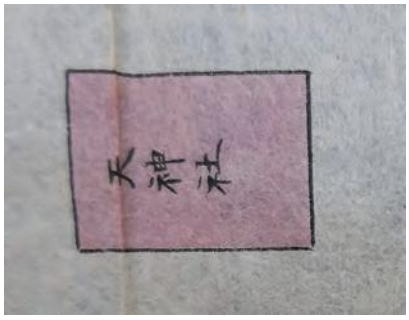


図２

①



②

【主な参考資料】

・第 27 回収蔵品展「三芳野神社とその社宝」図録

・展示図録番号

No 19 三芳野天神別当乗海覚書

20 河越御城内天神御社地并寺院由緒覚

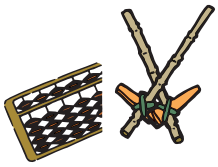
23 弘化度御修復記

47 武州河越城内八幡宮記

48 佐久良能仁保比　三

・遊暦雑記『新編埼玉県史資料編 10　近世１地誌』

（埼玉県　1979）



「むかしの勉強・むかしの遊び」展

第 28 回むかしの勉強・むかしの遊び展は平成 30 年 1 月 13 日 (土) ～ 2 月 25 日 (日) に開催

開館当初から続く展示

当館では、毎年「むかしの勉強・むかしの遊び」展（以後「むかし」展と省略）と称して、昭和３０～４０年代を中心とした資料を展示しています。開館当初のミニ展と呼ばれた時代を含め、今年度で２８回目を迎えました。

「むかし展」入口

「むかし展」室内

「むかし」展という企画は、「市内小学校３年生の社会科学習を支援し、教育効果を高める（博学連携）」ことを開催主旨の一つとしています。そのため、実際に使用されていた様々な道具や生活用品のほかに、昭和３０年代の教室や居間などの再現展示、川越市の学校変遷図（へんせんず）や写真パネルなども展示しています。現在では、川越市内の小学校３年生を中心に、毎年多くの子どもたちが博物館を訪れ、目を輝かせながら資料観察や体験学習をする姿が見られます。また、この「むかし」展は一般のお客様にも好評をいただき、毎年「懐かしい」と足を運んでくださる方や家族でいらっしゃる方など、特に週末は賑（にぎ）わいを見せています。懐かしそうにじっと眺めている方や解説員に質問している方、会話を弾（はず）ませながらご覧になっている方など、楽しく濃密な時間を過ごされている方々を見かけたときが、担当者としてとても嬉しい瞬間です。

今年度の「むかし」展

毎年、昭和時代の勉強や遊び、生活に関わる道具を展示するというスタンスは、基本的に変わりません。壁面の展示ケースは、昭和２０～３０年代頃と４０年代以降のブロックに分け、それぞれの時代の道具を展示しています。また大きな家電（冷蔵庫や白黒テレビ、ローラー付き洗濯機など）は、中央に並べています。そして、定番となっている昭和３０年代をイメージした教室や居間、台所の再現展示は、大人には懐かしく子どもには見たことのない物であふれている異空間です。さらに駄菓子屋は、平成７年まで市内の南通町で実際に営業していたお店から譲り受けた品々を展示しているため、かなりリアルに再現され、子どもたちにとって身近でもありアニメや映画の中で見たような世界でもある興味の尽きない場所となっています。

昭和 30 年代の教室

昭和 30 年代の居間

さて、今年度の目玉として室内中央に吊り下げた「蚊帳（か や）」は、小学生だけでなく一般のお客様も足を止めてつぶさにご覧になっていました。実はこの企画…、いつも学校の３学期（１～３月）という冬の期間に開催されていることから、夏の道具を展示することが少なかったため、夏の夜の大定番である部屋に吊るした大きな蚊帳を見せたいという小さなアイデアから始まった展示です。８畳用という大きさのため、半分に畳むことでなんとか展示できました。アニメなどで見たという子どもたちもいましたが、祖父母から孫へ「こうやって蚊が入らないように…」などと教えている場面も見られる情緒あふれる展示となりました。

室内に吊下げた蚊帳

もう一つの目玉は、「触れる展示」です。博物館はガラス越しに見るだけの展示が多く、教科書に載っている写真に近い感覚で展示物を眺める子どもがいるという学校の先生からのご意見が多々ありました。しかし博物館の収蔵品は、本来できるだけ触らないで丁寧に保存する物です。どのようにしたら資料の保存状態を損ねることなく、小学生が道具に直接触れられるようにできるか試行錯誤を重ねました。準備期間には展示物の選択を慎重に行い、学芸員によるアドバイスを受けながら、ついに「触れる展示」コーナーを設置することができました。

子どもたちの様子をよく見てみると、ダイヤル式黒電話では受話器を持たずにダイヤルを回したり、どこに指を入れてどこまで回すのか分からなかったりするなど、多様な使い方をしていました。製氷皿（今の子どもたちは冷蔵庫の中で勝手に氷を作ってくれるので知らないのです！）を見て首を傾げる子どもや、複製した昔の教科書やきせかえノートなどを熱心に覗き込む子どもたちの姿も見られました。展示室内で表面を見るだけでなく、触ったり中身を確かめたりできるということは、子どもたちの生きた学習になるのだと改めて感じました。もちろん一般のお客様からも、実際に触れたことで懐かしい思い出がよみがえったという喜びの声が多数聞かれました。

「触れる展示」コーナー

黒電話体験

今年度は、他にも手回し式の計算機や計算尺、五つ玉そろばん、今とは比べものにならないほど大きな電子計算機などを展示した「今と昔の計算機」コーナーを設置しました。こちらは「計算機が大きい！」と驚く子どももいましたが、大人のお客様も計算尺の使用法などを考えながら熱心にご覧になっていました。

小学校３年生の社会科学習

前述のように、期間中は毎日のように市内の小学校３年生が授業として訪れます。特別展示室での見学は、タイムスリップしたような室内の道具に囲まれて、見学の終了時刻になると子どもたちはみんな「えー、もう終わり？」という声をあげるほど熱心です。しかし、さらに印象的な様子が見られるのは、体験学習の生き生きとした活動です。「洗濯板」体験では、袖を捲（まく）った子どもたちが冷たい水に手を入れ、洗濯石鹸を擦り付けた自分のハンカチをゴシゴシと洗います。ハンカチが泡立ち、汚れの落とし方を確認した後、濯（すす）いでギュッと絞って完了です。「炭火アイロン」体験では、火傷（やけど）に注意しながら洗濯で濡（ぬ）れたハンカチをアイロンがけします。ハンカチの上を炭火アイロンが進むと湯気（ゆげ）が立ち、「これは熱いぞ！」と思う瞬間がやってきます。しわが少しずつなくなると、「きれいになった！」と喜ぶ子どもたちの表情は見逃せません。「石臼（いしうす）」体験では、大豆をきなこにします。子どもたちが石臼を一所懸命回すとパラパラと粉が落ちてきます。そして、香ばしい匂いからしばしば「食べたい！」という声が聞こえてきます。その後、石臼の溝を確認して粉になる道のりを考えながら、これらの体験を熱心にワークシートにまとめる姿が見られます。

（学習アドバイザーによる学習支援）

駄菓子屋解説

石臼体験

洗濯体験

炭火アイロン体験

このような見学や体験活動は、実は学習アドバイザーという地域の団体やボランティアの方々の協力によって成り立っています。毎年多数の方々にご賛同いただき、期間中は毎日入れ替わり参加していただいています。見学の際には、それぞれご自分の経験をもとに子どもたちに優しく語りかけるような解説が聞こえてきます。また体験活動では、そっと手を添えて子どもたちの手伝いをする様子が見られます。現場の若い先生では分からない当時の生の声を聞いたり体験できたりするので、子どもたちもグッと昔の世界に引き込まれます。本当にご参加いただいた学習アドバイザーの皆さまには感謝の一言に尽きますが、活動する様子を見ると、ご自身が楽しそうに子どもたちと接する姿が印象的で、終了時には「元気をもらった」という声を頂戴することもしばしばです。宣伝になってしまいますが、もし「私も参加してみたい」と思われた方がいらっしゃいましたら、ぜひ博物館で市民ボランティアにご参加されてはいかがでしょうか。ご連絡お待ちしています。

「なつかしい昭和の自動車」

「むかし」展の関連事業として始まった昭和３０年代の自動車展示は、今年度で４回目となりました。川越市在住の愛好家の方々が中心となって蒐集（しゅうしゅう）された、貴重な自動車を展示していただいています。今年度は２月１１日（日）に開催し、現代ではなかなかお目にかかれないオート三輪が、当館エントランス広場に９台も集合しました。

ダイハツミゼット MP5

オリエント TR-2

（左）ダイハツ SKC7・（右）みずしま TM5F

エンジン始動実演の時刻になると、お客様が足を止め、その振動音に耳を傾けていました。セルモーター式ではなく、キックやクランクでエンジンを始動する場面は、どの年代のお客様も興味深くご覧になっていました。他にも年配のお客様からは、「くろがねはないのか？」「昔はよく乗った」など質問や会話が弾み、若い年代の方は流行の自撮りやインスタ撮影をする様子も見られました。

お客様で賑わう
エントランス広場

クランク式エンジン始動実演

すべて自走できる自動車のため、展示終了の際は、公道に出て走り去る雄姿（ゆうし）がお客様の視線を集めました。当日は、「むかし」展の期間内ということもあり、家族連れの方が多く、来館者が 1000 人を超える大賑わいの１日でした。

これからの「むかし」展

さて、今まで続いた当館の「むかし」展は、現在岐路（きろ）に立たされています。小学生の親世代は平成生まれとなり、平成３２年度には学習指導要領も変わります。それに伴い、学校の社会科授業も変化していくでしょう。子どもたちの学習の場として考えると、これまでの「むかし」展のような昭和の道具を大幅に削減し、写真パネルによる展示が増えることになります。しかし、現在の展示をご覧になったお客様からは、「昔見た（使った）物が懐かしい」「また見に来ます」「これからも続けてほしい」という声が圧倒的です。

これからの「むかし」展は、もちろん様々な角度からの検討が必要ではありますが、学校教育に合わせた資料を取り入れながらも、これまでの昭和という時代の展示は続けていきたいと考えています。次回「むかし」展開催の際には、懐かしさがあふれるこの空間に、皆さまぜひ足をお運びください。

（教育普及担当　土井和貴）

ジュニアボランティアが頑張っています！

ジュニアボランティアについて

当館には、子ども体験教室の運営に協力してくれているジュニアボランティアがいます。平成２９年度は、新しく７名の子どもたちが加わり、現在１６名が登録しています。

ジュニアボランティアは、次代を担う子どもたちの豊かな人間性、社会性を育むため、主体的にボランティア活動に参加できる機会を提供することを目的として組織されました。当初は、博物館周辺の小・中学生を対象としていましたが、現在では市内在住の小学５年生から高校３年生までに幅を広げています。活動内容は、子ども体験教室の準備や参加者の受付、体験教室の補助や参加者の支援、そして終了後の片付けなどです。また、参加者と一緒に楽しく学ぶこともあります。

（左）参加者の受付

（右）体験活動の補助

子ども体験教室での活躍

２月１０日（土）・１７日（土）に実施した子ども体験教室「昔の道具をつかってみよう」でも、ジュニアボランティアが活躍しました。この企画では、市内小学校３年生の見学で体験する洗濯板、炭火アイロン、石臼といった道具のほか、足踏みミシンや機械式計算機などの昔の道具を実際に使ってみることができます。当日は、大人の市民ボランティアと同様に、ジュニアボランティアにも昔の道具の説明や参加者の支援をお願いしました。職員や市民ボランティア、そして先輩のジュニアボランティアから教わった知識を生き生きと説明する姿はとても頼もしく、参加者も目を輝かせながら、初めて使う昔の道具を楽しそうに体験する様子が見られました。年の近いお姉さん、お兄さんが同じ目線で話してくれることで、参加者にとっても気負いなく、昔の道具を体験し、関心を深めることができたのではないでしょうか。体験活動中、ジュニアボランティアは、「もっとこうしたら楽しいと思う！」とアイデアを出してくれたり、小さいお子さんにも積極的に声を掛けてくれました。おかげで沢山の参加者から「来て良かった」、「楽しかった」という声を聞くことができました。

機械式計算機の体験

足踏みミシンの体験

頑張ってます！ジュニアボランティア

ジュニアボランティアの活動について、講師の先生や一緒に活動する市民ボランティアからは「よく手伝ってくれた」、「頑張ってくれた」という声をよく耳にします。また、参加者のアンケートにも、「ボランティアのお姉さんやお兄さんに教えてもらい、うまくできてよかったです。」という感想が見られます。一生懸命協力し、頑張るジュニアボランティアの活動は、参加者の心強い味方になっています。また、その姿を多くの方が見守ってくれています。

ジュニアボランティアの中には、継続してボランティア活動に参加してくれている子も多く、最長では小学５年生から高校３年生までの８年間で、今年度３月で卒業を迎える子もいます。ジュニアボランティアとして活動する中で磨かれていく主体性や、他者のために進んで行動できる力は、普段の生活だけではなかなか得難いものです。ボランティア活動に挑戦してみよう！と飛び込んでくれたこと、そして継続してくれていることで、ジュニアボランティアの子どもたちは、当館としても頼れる存在に成長しています。今後も、ジュニアボランティアと協力しながらより良い事業が行えるよう励むとともに、彼らのさらなる活躍の機会の提供に努めていきたいと思います。

（教育普及担当　古賀愛望）

第 27 回収蔵品展「三芳野神社とその社宝」

会　期　平成 30 年 3 月 17 日 (土) ～ 5 月 13 日 (日)

当館で収蔵（寄託）している三芳野神社と八幡宮の社宝、約 50 件を展示します。普段は非公開のもので、25 年ぶりに公開しました。ぜひこの機会に、両社に伝来した貴重な社宝をご覧いただければ幸いです。

三芳野天神縁起　遷宮式の図
（三芳野神社蔵、県指定文化財）

蔵造り資料館（旧小山家住宅・屋号「万文」）の古写真を探しています！

現在、蔵造り資料館は耐震化工事中ですが、併せて様々な痕跡調査を実施しています。

古写真や工事中に新たに発見した痕跡をもとに建物の変遷を知り、過去の形を推測することは、建物を往時の姿に復元する場合に重要な資料となります。

当館で所蔵している古写真等では不足しており、皆様のお力添えが必要です。

下記資料をお持ちの方は、ぜひ博物館へご連絡お願いいたします。

対　象：明治期から大正期の写真、図面等
　　（特に大正 12 年関東大震災前後）
旧地名：南町　※一番街の写真をお持ちの方でも結構です。

利　用　の　御　案　内

◆入 館 料

区　分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
				・博物館 ・美術館	・博物館 ・本丸御殿 ・美術館	・博物館 ・本丸御殿 ・美術館 ・まつり会館
一　般	200円 (160円)	100円 (80円)	休館中	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	休館中	150円	180円	400円

※(　)内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆交 通 案 内

東武東上線・ＪＲ川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より、
●東武バスにて　「蔵のまち経由」乗車札の辻バス停下車徒歩 10 分、または「小江戸名所めぐり」乗車博物館前バス停下車すぐ
●イーグルバスにて　「小江戸巡回バス」乗車博物館・美術館前バス停下車すぐ
※御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。

◆開館時間　午前 9 時から午後 5 時まで（ただし入館は午後 4 時 30 分まで）

◆休 館 日　月曜日（休日の場合は翌日の火曜日）
第 4 金曜日（休日を除く）年末年始（12 月 29 日～ 1 月 3 日）
館内消毒（6 月下旬）特別整理期間（12 月下旬）

＊開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿とも原則として同じ
（館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館）

＊**蔵造り資料館は、耐震化事業のため平成 29 年 7 月 1 日から平成 31 年 3 月末（予定）まで休館いたします。**

◆ガイド　○博物館　平日（開館日）午前 11 時・午後 2 時　　土・日・祝日　午前 11 時・午後 1 時・午後 2 時・午後 3 時
※予定を変更させていただく場合もありますので、ガイドを御希望の方は、博物館までお問い合わせください。
○川越城本丸御殿　毎月第 2・第 3 日曜日　午前 11 時・午後 2 時　※事前のお申し込みはいりません。当日直接おこしください。

◆機織り実演・体験（協力：博物館同好会）
○博物館　毎週火・水曜日　午後 1 時～ 3 時　華の会（裂き織り）
毎週木・日曜日　午前 10 時～午後 3 時 (12 時～ 1 時はお休み)　川越唐桟手織りの会
※予定を変更させていただく場合もありますので、御希望の方は博物館までお問い合わせください。

平成30年 4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

◯ 印は、2館休館（博物館、本丸御殿）
◯ 印は、1館休館（博物館）

博物館の最新情報をパソコンヌは携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のＱＲコードから登録の手続きができます。毎月 25 日に最新の情報を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信等にかかる費用は利用者の負担となります。

発行日◆平成 30 年 3 月 31 日　　発行◆川越市立博物館

〒 350-0053　川越市郭町 2 丁目 30 番地 1　　TEL 049-222-5399　　FAX 049-222-5396
Ｅメール　hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp　　ホームページ　http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/